

北陸の畜産

がんばろう！北陸

令和8年8月
北陸農政局生産部畜産課



INDEX

目次

I	北陸における畜産の概要	1
II	乳用牛	2
III	肉用牛	5
IV	豚	8
V	採卵鶏	10
VI	ブロイラー	11
VII	飼料作物	12
VIII	畜産環境問題	15

I 北陸における畜産の概要

1 農業産出額に占める北陸の割合

令和6年全国に占める北陸の割合は、農業全体では4.8%、畜産では1.9%である。

(単位：%、億円)

	農業全体		畜産	
	額★	割合	額①	割合
全 国	108,200		36,932	
北 陸	5,145	4.8	687	1.9
新潟県	3,103	60.3	471	68.6
富山県	832	16.2	78	11.4
石川県	617	12.0	78	11.4
福井県	593	11.5	60	8.7

2 農業産出額の部門別構成割合

令和6年全国に占める畜産部門の割合は、全国では34.1%と最も高いが、北陸では13.4%と米に次ぐ部門である。

(単位：%、億円)

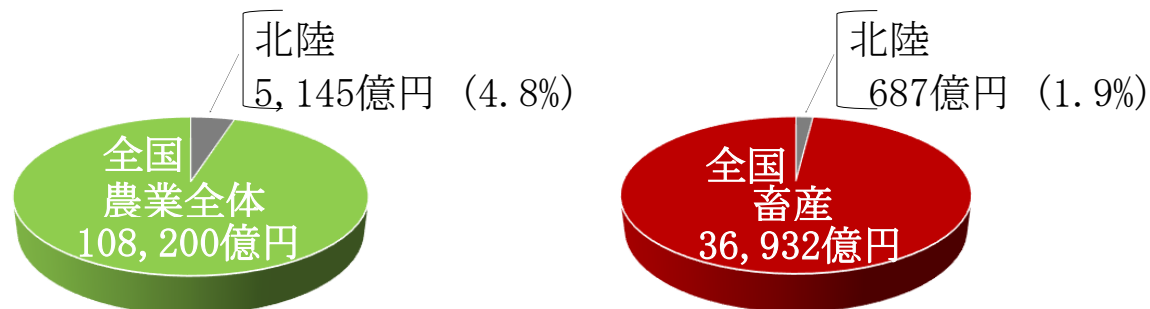
	畜産		米	
	額①	①/★	額②	②/★
全 国	36,932	34.1	25,640	23.7
北 陸	687	13.4	3,514	68.3
新潟県	471	15.2	2,069	66.7
富山県	78	9.4	647	77.8
石川県	78	12.6	390	63.2
福井県	60	10.1	408	68.8

3 北陸の畜種別産出額

令和6年北陸における畜種別産出額は、乳用牛が96億円（北陸シェア：14%）、肉用牛が84億円（12.3%）、豚が152億円（22.2%）、鶏が352億円（51.4%）である

肉

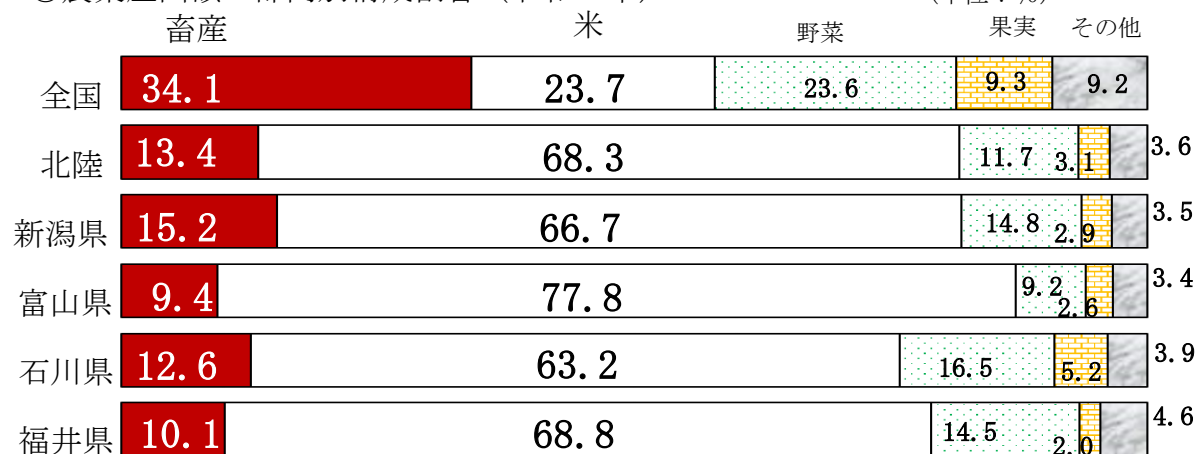
◎農業産出額に占める北陸の割合（令和6年）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

◎農業産出額の部門別構成割合（令和6年）

(単位：%)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

◎北陸の畜種別産出額（令和6年）

(単位：億円)

乳用牛	生乳	肉用牛	豚	鶏	鶏卵		ブロイラー	その他	合計
96	94	84	152	352	260	42		1	68

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

Ⅱ 乳用牛

1 乳用牛飼養戸数

北陸の乳用牛飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和7年は前年比6.4%減の204戸(全国シェア：1.8%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約60%を占めている。

◎乳用牛飼養戸数

(単位：戸、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	戸数シェア
全 国	24,400 (96.1)	13,300 (54.5)	12,600 (94.7)	11,900 (94.4)	11,300 (95.0)	
北 陸	544 (96.3)	253 (46.5)	237 (93.7)	218 (92.0)	204 (93.6)	1.8
新 潟	348 (98.0)	155 (44.5)	143 (92.3)	133 (93.0)	122 (91.7)	[59.8]
富 山	73 (97.3)	34 (46.6)	32 (94.1)	31 (96.9)	31 (100.0)	[15.2]
石 川	79 (89.8)	42 (53.2)	40 (95.2)	35 (87.5)	32 (91.4)	[15.7]
福 井	44 (93.6)	22 (50.0)	22 (100.0)	19 (86.4)	19 (100.0)	[9.3]

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：（ ）内は対前年比。令和4年は対平成20年比 注2：[]内は北陸管内に占めるシェア

2 乳用牛飼養頭数

北陸の乳用牛飼養頭数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和7年は前年比6.3%減の10,400頭(全国シェア：0.8%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約45%を占めている。

1戸あたりの飼養頭数は、石川県が約83頭/戸と最も多い。

◎乳用牛飼養頭数

(単位：頭、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	頭数シェア	頭/戸
全 国	1,533,000 (96.3)	1,371,000 (89.4)	1,356,000 (98.9)	1,313,000 (96.8)	1,293,000 (98.5)		114.4
北 陸	20,400 (94.3)	12,200 (59.8)	11,800 (96.7)	11,100 (94.1)	10,400 (93.7)	0.8	51.0
新 潟	11,100 (97.4)	5,860 (52.8)	5,500 (93.9)	5,050 (91.8)	4,650 (92.1)	[44.9]	38.1
富 山	2,890 (92.6)	2,180 (75.4)	2,140 (98.2)	2,170 (101.4)	2,120 (97.7)	[20.5]	68.4
石 川	4,660 (89.3)	3,100 (66.5)	3,050 (98.4)	2,930 (96.1)	2,640 (90.1)	[25.5]	82.5
福 井	1,740 (92.1)	1,060 (60.9)	1,070 (100.9)	950 (88.8)	940 (98.9)	[9.1]	49.5

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：（ ）内は対前年比。令和4年は対平成20年比 注2：[]内は北陸管内に占めるシェア

3 搾乳牛飼養頭数

北陸の搾乳牛飼養頭数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和7年は前年比4.5%減の6,620頭(全国シェア：1.0%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約46%を占めている。

1戸あたりの飼養頭数は石川県が約51頭/戸と最も多い。

◎搾乳牛飼養頭数

(単位：頭、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	頭数シェア	頭/戸
全 国	861,500 (98.9)	736,500 (85.5)	714,500 (97.0)	704,800 (98.6)	696,700 (98.9)		61.7
北 陸	13,300 (95.6)	7,700 (57.9)	7,380 (95.8)	6,930 (93.9)	6,620 (95.5)	1.0	32.5
新 潟	7,430 (95.3)	3,820 (51.4)	3,540 (92.7)	3,220 (91.0)	3,070 (95.3)	[46.3]	25.2
富 山	1,980 (104.2)	1,390 (70.2)	1,340 (96.4)	1,390 (103.7)	1,380 (99.3)	[20.8]	44.5
石 川	2,790 (90.3)	1,870 (67.0)	1,920 (102.7)	1,790 (93.2)	1,640 (91.6)	[24.7]	51.3
福 井	1,070 (98.2)	620 (57.9)	590 (95.2)	530 (89.8)	540 (101.9)	[8.2]	28.4

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：（ ）内は対前年比。令和4年は対平成20年比 注2：[]内は北陸管内に占めるシェア

4 生乳の生産・流通状況

◎生乳の生産・流通状況

(単位：t、%)

生乳生産量は、全国では前年比0.8%の増となっているものの、北陸では4.1%減の約6万6千t(全国シェア：0.9%)である。

県別では、新潟県が約50%を占めている。

北陸の生乳処理量は約9万8千tで生産量を約3万1千t上回っている。

		生産量	移入量	管内		移出量	管内		処理量
		a	b			c			a + b - c
全 国	H20	7,982,030 (99.7)	2,200,144 (98.0)			2,200,144 (98.0)			7,982,030 (99.7)
	H30	7,289,227 (91.3)	1,782,941 (81.0)			1,782,941 (81.0)			7,289,227 (91.3)
	R4	7,617,473 (104.5)	1,771,065 (99.3)			1,771,065 (99.3)			7,617,473 (104.5)
	R5	7,298,933 (95.8)	1,707,464 (96.4)			1,707,464 (96.4)			7,298,933 (95.8)
	R6	7,357,451 (100.8)	1,705,616 (99.9)			1,705,616 (99.9)			7,357,451 (100.8)
都府県	H20	4,076,745 (96.8)	2,198,061 (98.1)			1,818,709 (62.3)			4,456,097 (98.7)
	H30	3,324,034 (81.5)	1,782,941 (81.1)			1,293,674 (71.1)			3,813,301 (85.6)
	R4	3,308,198 (99.5)	1,771,065 (99.3)			1,285,533 (99.4)			3,793,730 (99.5)
	R5	3,151,952 (95.3)	1,707,464 (96.4)			1,205,604 (93.8)			3,653,812 (96.3)
	R6	3,124,401 (99.1)	1,705,616 (99.9)			1,184,020 (98.2)			3,645,997 (99.8)
北陸計	H20	122,637 (95.4)	29,858 (108.5)	9,359	20,499	30,699 (88.6)	9,359	21,340	121,796 (98.7)
	H30	79,301 (64.7)	32,971 (110.4)	8,718	24,253	14,615 (47.6)	8,718	5,897	97,657 (80.2)
	R4	74,553 (94.0)	32,408 (98.3)	3,078	29,330	16,447 (112.5)	3,078	13,369	90,514 (92.7)
	R5	69,313 (93.0)	35,742 (110.3)	2,257	33,485	16,663 (101.3)	2,257	14,406	88,392 (97.7)
	R6	66,463 (95.9)	47,357 (132.5)	3,740	43,617	15,934 (95.6)	3,740	12,194	97,886 (110.7)
新潟県	H20	68,975 (95.3)	4,573 (108.3)	218	4,355	25,392 (101.1)	5,315	20,077	48,156 (106.9)
	H30	42,839 (62.1)	11,243 (245.9)	22	11,221	7,296 (28.7)	4,483	2,813	46,786 (97.2)
	R4	38,769 (90.5)	22,037 (196.0)	0	22,037	7,161 (98.1)	665	6,496	53,645 (114.7)
	R5	34,814 (89.8)	26,110 (118.5)	67	26,043	7,691 (107.4)	191	7,500	53,233 (99.2)
	R6	33,757 (97.0)	30,255 (115.9)	30	30,225	7,300 (94.9)	634	6,666	56,712 (106.5)
富山県	H20	17,423 (100.1)	382 (37.2)	200	182	1,423 (114.5)	1,141	282	16,382 (95.3)
	H30	11,597 (66.6)	0 (-)	0	0	1,882 (132.3)	1,091	791	9,715 (59.3)
	R4	12,547 (108.2)	0 (-)	0	0	3,404 (180.9)	1,418	1,986	9,143 (94.1)
	R5	12,350 (98.4)	0 (-)	0	0	3,459 (101.6)	928	2,531	8,891 (97.2)
	R6	12,541 (101.5)	0 (-)	0	0	3,502 (101.2)	1,967	1,535	9,039 (101.7)
石川県	H20	26,638 (93.5)	17,989 (127.7)	8,577	9,412	686 (63.0)	10	676	43,941 (105.9)
	H30	19,406 (72.9)	21,728 (120.8)	8,696	13,032	62 (9.0)	11	51	41,072 (93.5)
	R4	17,600 (90.7)	10,371 (47.7)	3,078	7,293	303 (488.7)	0	303	27,668 (67.4)
	R5	16,869 (95.8)	9,632 (92.9)	2,190	7,442	287 (94.7)	0	287	26,214 (94.7)
	R6	15,100 (89.5)	17,102 (177.6)	3,710	13,392	121 (42.2)	0	121	32,081 (122.4)
福井県	H20	9,601 (93.4)	6,914 (85.9)	364	6,550	3,198 (62.5)	2,893	305	13,317 (100.8)
	H30	5,459 (56.9)	0 (-)	0	0	5,375 (168.1)	3,133	2,242	84 (100.0)
	R4	5,637 (103.3)	0 (-)	0	0	5,579 (103.8)	995	4,584	58 (100.0)
	R5	5,280 (93.7)	0 (-)	0	0	5,226 (93.7)	1,138	4,088	54 (100.0)
	R6	5,065 (95.9)	0 (-)	0	0	5,011 (95.9)	1,139	3,872	54 (100.0)

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

注1：() 内は対前年比。H30年は対H20年比。令和4年は対H30年比。

注2：H28以降、富山県、福井県の都道府県別移入量が非公表となった

5 生乳の用途別処理量

北陸の生乳仕向け量を用途別に見ると、飲用牛乳等向けが約96%である。

一方、乳製品向けの数量は非常に少なく、うちクリーム向けが約66%を占めている。

◎生乳の用途別処理量〔北陸〕

(単位：t、%)

区 分	平成20年	30年	令和4年	5年	6年
生産量計	122,637 (95.4)	79,301 (95.2)	74,553 (98.9)	69,313 (93.0)	66,463 (95.9)
処理量計	121,796 (98.7)	97,657 (97.3)	90,514 (97.6)	88,392 (97.7)	97,886 (110.7)
牛乳等向け	117,881 (98.7)	94,812 (97.3)	87,154 (97.3)	84,901 (97.4)	93,778 (110.5)
乳製品向け	3,026 (103.2)	2,223 (94.6)	2,667 (107.0)	2,678 (100.4)	2,807 (104.8)
うちチーズ向け	35 (116.7)	74 (115.6)	74 (94.9)	75 (101.4)	78 (104.0)
うちクリーム向け	1,910 (102.0)	1,470 (114.3)	1,649 (110.8)	1,685 (102.2)	1,859 (110.3)
その他	889 (89.2)	622 (111.5)	693 (116.5)	813 (117.3)	1,301 (160.0)

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

注：() 内は対前年比。H30年は対H20年比

6 牛乳等の生産量

北陸では、飲用牛乳等の生産量に占める学校給食用の割合が約15%と高い。

◎牛乳等生産量〔北陸〕

(単位：kℓ、%)

区 分	平成20年	30年	令和4年	5年	6年
飲用牛乳等	108,839 (98.2)	81,410 (74.8)	75,361 (97.7)	73,751 (97.9)	80,962 (109.8)
牛乳	100,336 (99.2)	79,474 (79.2)	73,771 (98.1)	72,269 (98.0)	79,482 (110.0)
うち学校給食用	18,851 (98.1)	13,716 (72.8)	12,484 (96.1)	12,231 (98.0)	12,012 (98.2)
加工乳・成分調整牛乳	8,503 (88.2)	1,936 (22.8)	1,590 (81.5)	1,482 (93.2)	1,480 (99.9)
乳飲料	16,847 (94.0)	14,949 (88.7)	5,359 (56.0)	5,603 (104.6)	6,145 (109.7)
はっ酵乳	10,406 (84.6)	14,187 (136.3)	14,664 (100.3)	15,068 (102.8)	19,951 (132.4)
乳酸菌飲料	28,843 (145.2)	17,483 (60.6)	- (-)	- (-)	- (-)

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

注：() 内は対前年比。H30年は対H20年比

7 乳業工場数

北陸の乳業工場では、1日当たり生乳処理量が2t未満の小規模の工場が各県の半数を占めており、全国より割合が多い。

◎乳業工場数

(単位：工場)

区 分	平成20年	30年	令和4年	5年	6年
全 国	622 (341)	571 (283)	545 (267)	542 (263)	539 (263)
北 陸	52 (34)	36 (20)	26 (13)	25 (13)	25 (13)
新 潟	24 (17)	15 (8)	11 (5)	10 (5)	10 (5)
富 山	17 (12)	11 (6)	9 (5)	9 (5)	9 (5)
石 川	7 (3)	8 (4)	5 (2)	5 (2)	5 (2)
福 井	4 (2)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

注：() 内は1日当たり生乳処理量が2t未満の工場

Ⅲ 肉用牛

1 肉用牛飼養戸数

北陸の肉用牛飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和7年は前年比6.8%減の289戸(全国シェア：0.9%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約57%を占めている。

◎肉用牛飼養戸数

(単位：戸、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	戸数シェア
全 国	80,400 (97.7)	40,400 (50.2)	38,600 (95.5)	36,500 (94.6)	34,000 (93.2)	
北 陸	579 (98.5)	328 (56.6)	325 (99.1)	310 (95.4)	289 (93.2)	0.9
新 潟	341 (97.7)	178 (52.2)	179 (100.6)	176 (98.3)	164 (93.2)	[56.7]
富 山	69 (101.5)	30 (43.5)	33 (110.0)	32 (97.0)	32 (100.0)	[11.1]
石 川	110 (104.8)	76 (69.1)	73 (96.1)	62 (84.9)	57 (91.9)	[19.7]
福 井	59 (89.4)	44 (74.6)	40 (90.9)	40 (100.0)	36 (90.0)	[12.5]

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：() 内は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：[] 内は北陸管内に占めるシェア

2 肉用牛飼養頭数

北陸の肉用牛飼養頭数は、令和7年は前年比4.2%減の20,500頭(全国シェア：0.8%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約56%を占めている。

1戸当たりの飼養頭数は富山県が約119頭/戸と最も多い。

◎肉用牛飼養頭数

(単位：頭、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	頭数シェア	頭/戸
全 国	2,890,000 (103.0)	2,614,000 (90.4)	2,687,000 (102.8)	2,672,000 (99.4)	2,595,000 (97.1)		76.3
北 陸	24,300 (97.7)	20,800 (85.6)	21,100 (101.4)	21,400 (101.4)	20,500 (95.8)	0.8	70.9
新 潟	12,400 (95.4)	11,300 (91.1)	11,700 (103.5)	12,000 (102.6)	11,500 (95.8)	[56.1]	70.1
富 山	4,640 (104.3)	3,690 (79.5)	3,770 (102.2)	3,860 (102.4)	3,820 (99.0)	[18.6]	119.4
石 川	3,390 (98.0)	3,680 (108.6)	3,670 (99.7)	3,630 (98.9)	3,360 (92.6)	[16.4]	58.9
福 井	3,910 (97.5)	2,110 (54.0)	1,980 (93.8)	1,960 (99.0)	1,960 (100.0)	[9.6]	54.4

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：() 内は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：[] 内は北陸管内に占めるシェア

3 子取り用めす牛飼養頭数

北陸の子取り用めす牛飼養頭数は、令和7年は前年比7.4%減の2,900頭(全国シェア：0.5%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約52%を占めている。

1戸当たりの飼養頭数は富山県が約23頭/戸と最も多い。

◎子取り用めす牛飼養頭数

(単位：頭、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	頭数シェア	頭/戸
全 国	667,300 (104.9)	636,800 (95.4)	645,200 (101.3)	640,400 (99.3)	611,400 (95.5)		18.0
北 陸	3,090 (104.0)	3,160 (102.3)	3,150 (99.7)	3,140 (99.7)	2,900 (92.4)	0.5	10.0
新 潟	1,430 (100.7)	1,520 (106.3)	1,520 (100.0)	1,620 (106.6)	1,500 (92.6)	[51.7]	9.1
富 山	680 (117.2)	800 (117.6)	800 (100.0)	750 (93.8)	730 (97.3)	[25.2]	22.8
石 川	590 (100.0)	590 (100.0)	600 (101.7)	560 (93.3)	480 (85.7)	[16.6]	8.4
福 井	390 (102.6)	250 (64.1)	230 (92.0)	210 (91.3)	190 (90.5)	[6.6]	5.3

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：() 内は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：[] 内は北陸管内に占めるシェア

4 肉用種肥育牛飼養頭数

北陸の肉専用種肥育牛飼養頭数は、全国と同様に増加傾向で推移していたが、令和7年は全国と同様に減少に転じており、前年比3.2%減の8,130頭(全国シェア：1.0%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約47%を占めている。

◎肉用種肥育牛飼養頭数

(単位：頭、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	頭数シェア
全 国	770,100 (104.5)	798,300 (103.7)	830,500 (104.0)	841,600 (101.3)	833,600 (99.0)	
北 陸	6,330 (102.9)	7,660 (121.0)	7,900 (103.1)	8,400 (106.3)	8,130 (96.8)	1.0
新 潟	2,640 (102.7)	3,210 (121.6)	3,460 (107.8)	3,840 (111.0)	3,800 (99.0)	[46.7]
富 山	1,390 (113.0)	1,210 (87.1)	1,290 (106.6)	1,350 (104.7)	1,340 (99.3)	[16.5]
石 川	1,070 (105.9)	2,250 (210.3)	2,180 (96.9)	2,240 (102.8)	2,030 (90.6)	[25.0]
福 井	1,230 (91.8)	990 (80.5)	970 (98.0)	980 (101.0)	960 (98.0)	[11.8]

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：() 内は対前年比。令和4年は対平成20年比

注2：[] 内は北陸管内に占めるシェア

5 乳用種肥育牛飼養頭数

北陸の乳用種肥育牛飼養頭数は、令和7年は前年比4.3%減の7,540頭(全国シェア：1.0%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約72%を占めている。

◎乳用種肥育牛飼養頭数

(単位：頭、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	頭数シェア
全 国	1,067,000 (100.3)	802,200 (75.2)	804,400 (100.3)	775,100 (96.4)	743,800 (96.0)	
北 陸	13,500 (93.0)	8,160 (60.4)	8,100 (99.3)	7,880 (97.3)	7,540 (95.7)	1.0
新 潟	7,510 (91.6)	5,820 (77.5)	5,860 (100.7)	5,650 (96.4)	5,400 (95.6)	[71.6]
富 山	2,460 (96.9)	1,360 (55.3)	1,330 (97.8)	1,410 (106.0)	1,380 (97.9)	[18.3]
石 川	1,460 (90.1)	330 (22.6)	330 (100.0)	260 (78.8)	260 (100.0)	[3.4]
福 井	2,090 (95.9)	650 (31.1)	570 (87.7)	560 (98.2)	490 (87.5)	[6.5]

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：() 内は対前年比。令和4年は対平成20年比

注2：[] 内は北陸管内に占めるシェア

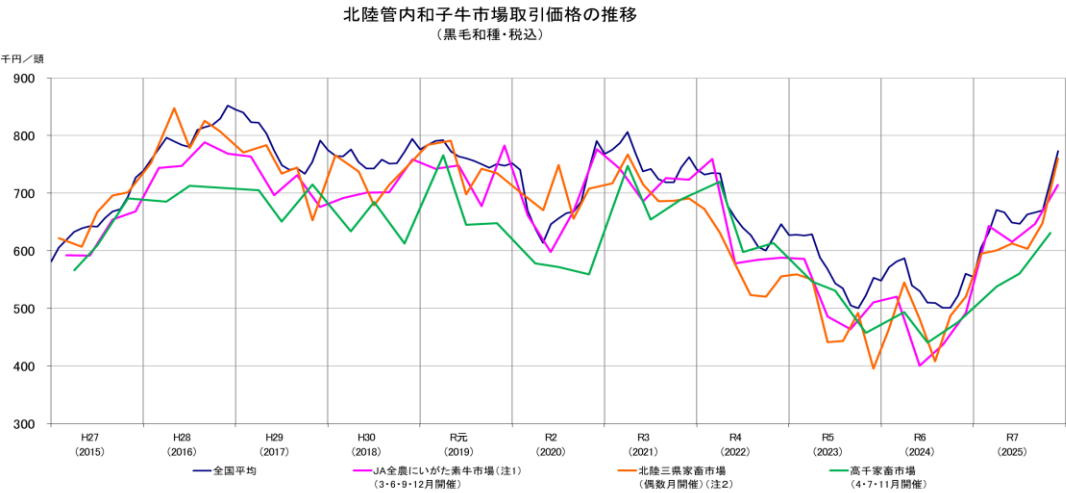
◎肉用子牛価格の推移（黒毛和種・税込）

単位：千円／頭

6 肉用子牛価格の推移
（黒毛和種）

北陸管内において定期的に黒毛和種の子牛取引を行っている家畜市場は3カ所あり、取引頭数の約8割をJA全農にいがた素牛市場（新潟県長岡市）と北陸三県家畜市場（石川県金沢市）で占めている。

黒毛和種の子牛価格は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降、軟調に推移していたが、子牛頭数の減少や枝肉価格の上昇を背景に価格が上向き、令和7年は堅調に推移している。



資料：JA等公表資料、ALIC肉用子牛取引情報、県調べ
注1：2018年6月までは上越家畜市場での価格（2018年9月に移転・名称変更）
注2：2020年度までは、2・5・7・9・11月の年5回開催。

7 と畜頭数
と畜頭数は全国的に横ばい傾向で推移しており、令和7年は北陸全体で9,079頭である。

(単位：頭、%)					
区 分	平成20年	30年	5年	6年	7年
全 国	1,237,675 (102.5)	1,056,246 (85.3)	1,104,523 (105.9)	1,115,150 (101.0)	1,094,240 (98.1)
北 陸	15,911 (96.2)	8,957 (56.3)	9,567 (109.2)	9,515 (99.5)	9,079 (95.4)
新 潟	3,835 (100.7)	1,951 (50.9)	2,432 (126.0)	2,412 (99.2)	2,558 (106.1)
富 山	2,215 (98.4)	1,365 (61.6)	1,102 (85.0)	1,152 (104.5)	1,123 (97.5)
石 川	9,861 (94.2)	5,641 (57.2)	6,033 (109.0)	5,951 (98.6)	5,398 (90.7)
福 井	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)

資料：農林水産省「畜産物流通統計」
注1：頭数は成牛頭数+子牛頭数。
注2：（ ）内は対前年比。平成30年は対平成20年比。令和5年は平成30年比。

IV 豚

1 豚飼養戸数

北陸の飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和6年は前年比10.2%減の97戸(全国シェア：3.1%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約73%を占めている。

◎豚飼養戸数

(単位：戸、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	戸数シェア
全 国	7,230 (95.8)	3,850 (53.3)	3,590 (93.2)	3,370 (93.9)	3,130 (92.9)	
北 陸	253 (97.3)	127 (50.2)	121 (95.3)	108 (89.3)	97 (89.8)	3.1
新 潟	191 (97.4)	98 (51.3)	92 (93.9)	81 (88.0)	71 (87.7)	[73.2]
富 山	30 (100.0)	14 (46.7)	14 (100.0)	13 (92.9)	12 (92.3)	[12.4]
石 川	23 (92.0)	12 (52.2)	12 (100.0)	11 (91.7)	11 (100.0)	[11.3]
福 井	9 (100.0)	3 (33.3)	3 (100.0)	3 (100.0)	3 (100.0)	[3.1]

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：（ ）は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：[]内は北陸管内に占めるシェア

注3：令和7年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

2 豚飼養頭数

北陸の豚飼養頭数は、令和6年は前年比14.7%減の171,300頭(全国シェア：1.9%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約78%を占めている。

◎豚飼養頭数

(単位：頭、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	頭数シェア	頭／戸
全 国	9,745,000 (99.9)	9,290,000 (95.3)	8,949,000 (96.3)	8,956,000 (100.1)	8,798,000 (98.2)		2,811
北 陸	294,900 (96.9)	226,800 (76.9)	208,500 (91.9)	200,900 (96.4)	171,300 (85.3)	1.9	1,766
新 潟	212,600 (96.2)	182,100 (85.7)	166,800 (91.6)	157,900 (94.7)	133,400 (84.5)	[77.9]	1,879
富 山	39,500 (97.5)	23,300 (59.0)	22,200 (95.3)	23,500 (105.9)	19,700 (83.8)	[11.5]	1,642
石 川	37,800 (99.0)	20,100 (53.2)	18,200 (90.5)	17,800 (97.8)	15,800 (88.8)	[9.2]	1,436
福 井	5,020 (105.7)	1,410 (28.1)	1,290 (91.5)	1,710 (132.6)	2,390 (139.8)	[1.4]	797

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：（ ）は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：[]内は北陸管内に占めるシェア

注3：令和7年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

3 子取り用めす豚飼養頭数

北陸の子取り用めす豚飼養頭数は、令和6年は前年比2.3%増の17,700頭(全国シェア：2.2%)である。
県別では、新潟県が最も多く管内の約81%を占めており、1戸当たりの飼養頭数も約223頭/戸と最も多い。

◎子取り用めす豚飼養頭数 (単位：頭、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	頭数シェア	
						頭数シェア	頭／戸
全国	910,100 (99.5)	853,100 (93.7)	823,200 (96.5)	789,100 (95.9)	791,800 (100.3)		299.9
北陸	27,300 (99.8)	20,100 (73.6)	19,200 (95.5)	17,300 (90.1)	17,700 (102.3)	2.2	213.3
新潟	19,700 (99.5)	15,300 (77.7)	15,300 (100.0)	13,900 (90.8)	14,300 (102.9)	[80.8]	223.4
富山	3,560 (100.6)	2,540 (71.3)	1,880 (74.0)	1,550 (82.4)	1,470 (94.8)	[8.3]	210.0
石川	3,560 (100.6)	2,020 (56.7)	1,970 (97.5)	1,710 (86.8)	1,720 (100.6)	[9.7]	172.0
福井	450 (102.3)	240 (53.3)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－	－

資料：農林水産省「畜産統計」
注1：() は対前年比。令和3年は対平成20年比
注2：[] 内は北陸管内に占めるシェア
注3：「頭／戸」は子取り用めす豚のいる農家1戸当たりの飼養頭数
注4：令和7年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

4 と畜頭数

令和7年の北陸のと畜頭数は、前年比1.2%増減の533,565頭(全国シェア：3.3%)である。
県別では新潟県が最も多く約78%を占めている。

◎と畜頭数 (単位：頭、%)

	平成20年	30年	5年	6年	7年	頭数シェア	
						頭数シェア	
全国	16,192,079 (99.5)	16,430,088 (101.5)	16,406,981 (99.9)	16,259,395 (99.1)	16,064,602 (98.8)		
北陸	572,172 (101.4)	563,169 (98.4)	554,804 (98.5)	539,890 (97.3)	533,565 (98.8)	3.3	
新潟	407,132 (101.3)	418,176 (102.7)	430,703 (103.0)	417,664 (97.0)	414,965 (99.4)	[77.8]	
富山	109,005 (102.1)	99,612 (91.4)	91,428 (91.8)	89,612 (98.0)	85,880 (95.8)	[16.1]	
石川	56,035 (100.5)	45,381 (81.0)	32,673 (72.0)	32,614 (99.8)	32,720 (100.3)	[6.1]	
福井	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－	

資料：農林水産省「畜産物流通統計」
注1：() は対前年比。平成30年は対平成20年比。令和5年は対平成30年比。
注2：[] 内は北陸管内に占めるシェア

V 採卵鶏

1 採卵鶏飼養戸数

北陸の飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和6年は9.9%減の64戸(全国シェア：3.9%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約50%を占めている。

◎採卵鶏飼養戸数

(単位：戸、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	シェア
全 国	3,300 (95.4)	1,880 (57.0)	1,810 (96.3)	1,690 (93.4)	1,640 (97.0)	
北 陸	123 (90.4)	77 (62.6)	77 (100.0)	71 (92.2)	64 (90.1)	3.9
新 潟	51 (92.7)	38 (74.5)	37 (97.4)	35 (94.6)	32 (91.4)	[50.0]
富 山	21 (87.5)	17 (81.0)	17 (100.0)	15 (88.2)	14 (93.3)	[21.9]
石 川	31 (96.9)	13 (41.9)	11 (84.6)	9 (81.8)	6 (66.7)	[9.4]
福 井	20 (80.0)	9 (45.0)	12 (133.3)	12 (100.0)	12 (100.0)	[18.8]

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：「種鶏」のみの飼養者を除く

注2：（ ）は対前年比。令和3年は対平成20年比

注3：[]内は北陸管内に占めるシェア

注4：令和7年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

2 採卵鶏飼養羽数

北陸の飼養羽数は、減少傾向で推移しており、令和6年は前年比22%減の458万羽(全国シェア：3.5%)である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約57%を占めている。

北陸の1戸当たりの飼養羽数は、新潟県及び石川県は全国平均より多く、石川県は約10万羽と全国平均を大幅に上回っている。

◎採卵鶏飼養羽数

(単位：千羽、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	シェア	千羽/戸
全 国	142,523 (99.8)	140,697 (98.7)	137,291 (97.6)	128,579 (93.7)	129,729 (100.9)		79.1
北 陸	7,847 (102.3)	7,813 (99.6)	6,755 (86.5)	5,871 (86.9)	4,580 (78.0)	3.5	71.6
新 潟	5,039 (106.3)	5,279 (104.8)	4,268 (80.8)	3,296 (77.2)	2,603 (79.0)	[56.8]	81.3
富 山	1,106 (83.5)	825 (74.6)	736 (89.2)	707 (96.1)	612 (86.6)	[13.4]	43.7
石 川	1,258 (113.8)	1,046 (83.1)	987 (94.4)	1,146 (116.1)	627 (54.7)	[13.7]	104.5
福 井	444 (88.1)	663 (149.3)	764 (115.2)	722 (94.5)	738 (102.2)	[16.1]	61.5

資料：農林水産省「畜産統計」

注1：羽数は「種鶏」及び「ひな(6か月未満)」を除く「成鶏めす(6か月以上)」の羽数

注2：（ ）は対前年比。令和3年は対平成20年比

注3：[]内は北陸管内に占めるシェア

注4：令和7年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。

3 鶏卵生産量

北陸の鶏卵生産量は、令和4年度シーズン及び令和6年度シーズンの高病原性鳥インフルエンザによる影響から減少傾向にあったものの、令和7年はほぼ横ばいであった。

◎鶏卵生産量

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	シェア
全 国	2,553,557 (98.8)	2,585,987 (101.3)	2,426,940 (93.8)	2,480,663 (102.2)	2,453,409 (98.9)	
北 陸	150,785 (97.5)	137,151 (91.0)	102,986 (75.1)	99,142 (96.3)	99,512 (100.4)	4.1
新 潟	98,017 (98.4)	89,311 (91.1)	57,425 (64.3)	63,345 (110.3)	59,594 (94.1)	[59.9]
富 山	22,060 (95.0)	13,163 (59.7)	13,139 (99.8)	10,694 (81.4)	11,033 (103.2)	[11.1]
石 川	22,983 (99.2)	19,643 (85.5)	18,686 (95.1)	9,836 (52.6)	12,726 (129.4)	[12.8]
福 井	7,725 (89.6)	15,034 (194.6)	13,736 (91.4)	15,267 (111.1)	16,159 (105.8)	[16.2]

資料：農林水産省「畜産物流通統計」

注2：（ ）は対前年比。令和4年は対平成20年比

注3：[]内は北陸管内に占めるシェア

VI ブロイラー

1 ブロイラー飼養戸数

北陸の飼養戸数は、令和6年は前年同の13戸(全国シェア：0.6%)である。

県別では、新潟県が管内の約77%を占めている。

◎ブロイラー飼養戸数

(単位：戸、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	戸数シェア
全 国	2,456 (95.1)	2,160 (87.9)	2,100 (97.2)	2,100 (100.0)	2,050 (97.6)	
北 陸	20 (90.9)	13 (65.0)	11 (84.6)	13 (118.2)	13 (100.0)	0.6
新 潟	14 (107.7)	10 (71.4)	9 (90.0)	10 (111.1)	10 (100.0)	[76.9]
富 山	2 (50.0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-
石 川	1 (100.0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-
福 井	3 (75.0)	3 (100.0)	2 (66.7)	3 (150.0)	3 (100.0)	[23.1]

資料：農林水産省「畜産物流通統計」（平成21年まで）、「畜産統計」（平成25年～）

注1：（ ）は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：〔 〕内は北陸管内に占めるシェア

2 ブロイラー飼養羽数

北陸の飼養羽数は、近年は増加傾向で推移していたが、令和6年は前年比

4.4%減の129万羽(全国シェア：0.9%)である。

◎ブロイラー飼養羽数

(単位：千羽、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	羽数シェア	千羽/戸
全 国	102,987 (97.8)	139,658 (135.6)	139,230 (99.7)	141,463 (101.6)	144,859 (102.4)		70.7
北 陸	706 (101.7)	946 (134.0)	1,239 (131.0)	1,352 (109.1)	1,292 (95.6)	0.9	99.4
新 潟	615 (112.8)	882 (143.4)	- (-)	1,254 (-)	1,201 (95.8)	[93.0]	120.1
富 山	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	-
石 川	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	-
福 井	64 (53.3)	64 (100.0)	- (-)	98 (-)	91 (92.9)	[7.0]	30.3

資料：農林水産省「畜産物流通統計」（平成21年まで）、「畜産統計」（平成25年～）

注1：（ ）は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：〔 〕内は北陸管内に占めるシェア

3 出荷羽数

北陸の出荷羽数は、全国と同様に増加傾向で推移しており、令和6年は前年比

2.7%増の745万羽(全国シェア：1.0%)である。

◎出荷羽数

(単位：千羽、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	羽数シェア	千羽/戸
全 国	629,766 (101.1)	713,834 (113.3)	719,259 (100.8)	720,878 (100.2)	731,929 (101.5)		348.5
北 陸	4,443 (91.3)	5,300 (119.3)	6,845 (129.2)	7,257 (106.0)	7,450 (102.7)	1.0	573.1
新 潟	4,094 (94.7)	4,982 (121.7)	- (-)	6,871 (-)	7,082 (103.1)	[95.1]	708.2
富 山	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	-
石 川	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-	-
福 井	349 (64.7)	318 (91.1)	- (-)	386 (-)	368 (95.3)	[4.9]	122.7

資料：農林水産省「畜産物流通統計」（平成26年まで）、「畜産統計」（平成27年～）

注1：（ ）は対前年比。令和3年は対平成20年比

注2：平成26年までは年次（1～12月）、平成27年以降は、2月2日から翌年2月1日までの1年間に出荷した羽数

注3：〔 〕内は北陸管内に占めるシェア

VII 飼料作物

1 飼料作物作付面積

(1) 飼料作物作付面積の推移

全国の飼料作物作付面積は、平成22年以降経営所得安定対策の充実により飼料用米や稲発酵粗飼料の作付が拡大した。

北陸の飼料作物作付面積は全国と同様に概ね増加傾向で推移しており、令和5年度は、13,800ha(全国シェア：1.4%)である。

◎飼料作物作付面積

(単位：ha、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	シェア
全国	901,500 (100.5)	1,026,000 (113.8)	1,018,000 (99.2)	975,500 (95.8)	- (-)	-
北陸	4,640 (101.8)	- (-)	13,800 (-)	- (-)	- (-)	-
飼料用米	30 (-)	10,572 (35,240.0)	9,235 (87.4)	6,818 (73.8)	3,778 (-)	-
牧草	3,830 (97.2)	- (-)	2,600 (-)	- (-)	- (-)	-
稲発酵粗飼料	306 (145.7)	1,120 (366.0)	1,300 (116.1)	1,515 (116.5)	1,395 (-)	-
青刈りとうもろこし	255 (100.4)	- (-)	166 (-)	- (-)	- (-)	-

資料：農林水産省「作物統計」、「耕地及び作付面積統計」、「新規需要米の都道府県別の取組計画認定状況」

注1：() は前年比、令和4年は平成20年比 注2：- は、抽出調査のためデータがない

(2) 飼料用米作付面積と生産量

全国の飼料用米作付面積は、平成23年度からの戸別所得補償(現：経営所得安定対策)の本格実施等により、輸入とうもろこしと同程度の価格での供給が可能となり、畜産側の需要増から生産は拡大した。

北陸の作付面積は全国と同様に推移し、令和7年は前年比44.6%減の3,778ha(全国シェア：8.2%)である。

◎飼料用米：作付面積

(単位：ha、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	シェア
全国	1,410 (482.9)	142,055 (10,074.8)	133,925 (94.3)	98,666 (73.7)	46,004 (46.6)	
北陸	30 (-)	10,572 (35,240.0)	9,235 (87.4)	6,818 (73.8)	3,778 (55.4)	8.2
新潟県	10 (-)	4,578 (45,780.0)	4,032 (88.1)	2,866 (71.1)	1,334 (46.5)	[35.3]
富山県	18 (-)	2,149 (11,938.9)	2,096 (97.5)	1,914 (91.3)	1,472 (76.9)	[39.0]
石川県	0 (-)	1,767 (#DIV/0!)	1,131 (64.0)	507 (44.8)	121 (23.9)	[3.2]
福井県	2 (-)	2,078 (103,900.0)	1,976 (95.1)	1,531 (77.5)	851 (55.6)	[22.5]

資料：農林水産省「新規需要米の都道府県別の取組計画認定状況」

注1：() は前年比、令和4年は平成20年比 注2：[] は、北陸管内に占めるシェア

注3：- は、抽出調査のためデータがない

県別では、作付面積は富山県が1,472haと管内の約39%を占めており、生産量も富山県が8,114tと管内の約40%を占めている。

◎飼料用米：生産量

(単位：t、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	シェア
全国	8,020 (-)	761,429 (9,494.1)	717,566 (94.2)	527,181 (73.5)	247,793 (47.0)	
北陸	181 (-)	56,673 (31,311.0)	49,547 (87.4)	36,586 (73.8)	20,378 (55.7)	8.2
新潟県	57 (-)	24,916 (43,712.3)	22,012 (88.3)	15,597 (70.9)	7,238 (46.4)	[35.5]
富山県	110 (-)	11,785 (10,713.6)	11,521 (97.8)	10,516 (91.3)	8,114 (77.2)	[39.8]
石川県	2 (-)	9,205 (460,250.0)	5,825 (63.3)	2,596 (44.6)	624 (24.0)	[3.1]
福井県	12 (-)	10,767 (89,725.0)	10,189 (94.6)	7,877 (77.3)	4,402 (55.9)	[21.6]

資料：農林水産省「新規需要米の都道府県別の取組計画認定状況」を基に推計

注1：() は前年比、令和4年は平成20年比 注2：[] は、北陸管内に占めるシェア

注3：- は、抽出調査のためデータがない

(3) 牧草作付面積

全国の牧草作付面積は減少傾向で推移しており、北陸地域においても同様に減少傾向で推移している。

◎牧草作付面積

(単位：ha、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	シェア
全 国	769,000 (99.4)	717,600 (93.3)	711,400 (99.1)	705,200 (99.1)	695,500 (98.6)	
北 陸	3,830 (97.2)	- (-)	- (-)	2,600 (-)	- (-)	-
新潟県	1,880 (96.4)	- (-)	- (-)	1,090 (-)	- (-)	-
富山県	737 (98.1)	- (-)	- (-)	548 (-)	- (-)	-
石川県	733 (96.4)	- (-)	- (-)	640 (-)	- (-)	-
福井県	474 (97.7)	- (-)	- (-)	330 (-)	- (-)	-

資料：農林水産省「作物統計」

注1：() は前年比、令和3年は平成20年比

注2：－は、抽出調査のためデータがない

(4) 稲発酵粗飼料作付面積

稲発酵粗飼料は、稲作農家にとっては作りやすく、また畜産農家にとっては飼料価値の高い飼料作物として全国的に増加している。

北陸においても、令和6年は前年比16.5%増の1,515ha(全国シェア：2.7%)だったが、令和7年は前年比7.9%減の1,395ha(全国シェア：2.9%)となった。

県別では、新潟県と富山県の作付面積が多く、両県で管内の約83%を占めている。

◎稲発酵粗飼料作付面積

(単位：ha、%)

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	シェア
全 国	9,089 (143.4)	48,404 (532.6)	53,055 (109.6)	56,479 (106.5)	48,896 (86.6)	
北 陸	306 (145.7)	1,120 (366.0)	1,300 (116.1)	1,515 (116.5)	1,395 (92.1)	2.9
新潟県	239 (144.8)	433 (181.2)	533 (123.1)	687 (128.9)	630 (91.7)	[45.2]
富山県	27 (207.7)	457 (1,692.6)	480 (105.0)	538 (112.1)	528 (98.1)	[37.8]
石川県	1 (100.0)	109 (10,900.0)	127 (116.5)	124 (97.6)	112 (90.3)	[8.0]
福井県	39 (125.8)	121 (310.3)	160 (132.2)	166 (103.8)	125 (75.3)	[9.0]

資料：農林水産省「新規需要米の都道府県別の取組計画認定状況」

注1：() は前年比、令和4年は平成20年比 注2：[]は、北陸管内に占めるシェア

注3：－は、抽出調査のためデータがない

(5) 青刈りとうもろこし作付面積

全国の青刈りとうもろこし作付面積は、近年増加傾向で推移している。北陸は令和5年に新潟県でまとまった面積の作付けがあった。

◎青刈りとうもろこし作付面積

(単位：ha、%)

	平成20年	令和3年	4年	5年	6年	シェア
全 国	90,800 (105.5)	95,500 (105.2)	96,300 (100.8)	97,200 (100.9)	96,500 (99.3)	
北 陸	255 (100.4)	- (-)	- (-)	166 (-)	- (-)	-
新潟県	187 (108.1)	- (-)	- (-)	151 (-)	- (-)	-
富山県	21 (95.5)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-
石川県	33 (73.3)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-
福井県	14 (100.0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	-

資料：農林水産省「作物統計」

注1：() は前年比、令和4年は平成20年比

注2：－は、抽出調査のためデータがない

2 公共牧場の概要

(1) 公共牧場の現状

全国の公共牧場は令和6年度で639
牧場あり、北陸は16牧場で牧草地面
積は882haとなっている。

◎ 公共牧場数と牧草地面積（令和6年度）

（単位：ha、％）

	牧場数	牧草地面積	
全国	639	78,823	(100)
北海道	173	46,804	(59.4)
都府県	466	32,019	(40.6)
東北	217	18,389	(23.3)
関東	58	3,905	(5.0)
北陸	16	882	(1.1)
東海	15	1,150	(1.5)
近畿	2	71	(0.1)
中四国	43	2,544	(3.2)
九州	114	5,040	(6.4)
沖縄	1	38	(0.0)

資料：農林水産省畜産局飼料課調べ

注1：都府県の地域区分は、地方農政局の地域区分と同一とした。

注2：四捨五入の都合により、内訳と計が一致しない場合がある。

(2) 北陸の公共牧場の利用状況

令和6年度の利用頭数は1,393頭と
なっている。

◎ 北陸の公共牧場の概要（令和6年度）

（単位：ha、頭）

	牧場数	牧場総面積	牧草地面積			利用頭数（7月1日時点）		
			採草地	採草・ 放牧兼用	放牧地	乳用牛	肉用牛	計
北陸計	16	882	183	25	207	822	571	1,393

資料：農林水産省畜産局飼料課調べ

注：集計の都合上、計が合わない場合がある。

VIII 畜産環境問題

1 畜産経営に起因する苦情発生状況

北陸における苦情発生件数は、長期的には「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律（平成11年）」の施行による管理の適正化や農家戸数の減少もあり、減少傾向にある。

令和7年の苦情発生件数は39件であり、全国（1,251件）に占める割合は3.1%である。

畜種別構成比を見ると、豚が38.5%と最も多くなっている。

2 畜種別発生率

北陸の畜産経営体数に対する苦情発生率は、近年、増頭や増羽による経営規模の拡大と農家戸数の減少の影響により、おおむね横ばいで推移している。

令和7年の発生率は5.5%で、畜種別では豚（15.5%）及び鶏（12.6%）など中小家畜の発生率が高い傾向が見られる。

3 苦情の発生原因別発生状況

苦情の発生原因は、全国と同様に悪臭関連が最も多く、令和7年には29件が発生し、全苦情件数の74.4%を占めている。

次いで、水質汚濁関連及びその他がそれぞれ6件（15.4%）となっている。

◎北陸の畜産経営に係る苦情の畜種別発生件数

（単位：件、%）

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年	前年比 シェア	
						前年比	シェア
全国	2,433	1,442	1,380	1,384	1,251	90.4	100
北陸	101	46	42	41	39	95.1	[3.1]
乳用牛	34	10	9	9	3	33.3	[7.7]
肉用牛	4	8	7	5	5	100.0	[12.8]
豚	38	18	16	17	15	88.2	[38.5]
鶏	24	10	10	10	11	110.0	[28.2]
その他	1	0	0	0	5	-	[12.8]

資料：畜産局及び北陸農政局調べ

注1：調査時点は7月1日現在/年で、それぞれ過去1年間における問題発生状況について把握したものである。

注2：この調査は畜産経営が原因であるとして市町村等に届けられた苦情について県が調査し畜産局が取りまとめたものである。

◎畜産経営体数に対する苦情の畜種別発生率

（単位：%）

	平成20年	令和4年	5年	6年	7年
北陸	6.6	5.2	4.5	5.2	5.5
乳用牛	6.3	3.6	2.1	2.8	1.4
肉用牛	0.7	2.1	2.5	1.6	1.6
豚	15.0	13.2	12.0	17.5	15.5
鶏	16.8	10.1	8.5	10.0	12.6

資料：畜産局及び北陸農政局調べ

注：発生率＝苦情発生戸数(件数)/農家戸数(出典：畜産統計)

◎家畜経営に係る苦情の発生原因別発生状況

（単位：件、%）

	平成20年		令和4年		5年		6年		7年		シェア	
	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸
合計	2,433	101	1,442	46	1,380	42	1,384	41	1,251	39	100	100
水質汚濁関連	700	16	324	8	264	4	274	4	253	6	20.2	15.4
悪臭発生関連	1,479	82	940	38	864	33	869	37	758	29	60.6	74.4
害虫発生関連	154	12	194	4	158	0	155	1	138	0	11.0	0.0
その他	339	0	281	2	322	6	328	2	341	6	27.3	15.4

資料：畜産局及び北陸農政局調べ

注1：発生原因は、複数の原因が併発しているものも含むため総数とは一致しない。

注2：その他は、ふん尿の流出、騒音等である。

